イベントレポート 『2010　K耐久東海シリーズ　第４戦』

開催日　2010 年 9 月 26 日（日）
　　14:00 決勝スタート　　16:00 チェッカー
天候　　曇り時々雨
最高気温　22.6℃（14 時）
場所　　スパ西浦モーターパーク
エントリー台数　36 台

2010 年 9 月 26 日（日）愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークにおいて、2010Ｋ耐久／ＧＴ耐久東海シリーズの第 4 戦が行われた。
記録的な猛暑となった今夏。9 月に入っても各地で 35℃を超える猛暑日となっていたが、数日前より初秋を思わせる陽気となり、この日も涼しい朝を迎えた。
朝には雲ひとつ無い絶好のレース日和となったが、Ｋ耐久が開催される午後には雨になるとの予報。天気予報通りに昼過ぎから断続的に雨が降り始め、前回に引き続き難しい路面コンディションの中でのレースとなった。

■　ＫＮＣクラス（軽ＮＡのクローズドクラス）

今回は 16 台のエントリーで最大の激戦区となったこのクラス。台数が多いがゆえにポイント争いも混沌としている。
ここ２戦連勝中の No.99「モノコックボディートゥデイ」はウエイトハンディー40Kg を搭載しての走行となり、どこまで上位に絡めるのか未知数である。
そんな No.99 の間げきを縫って上位に食い込んでくるのはどのチームなのか。

■　予選

予選前に小雨がぱらつくが、路面はほぼドライの状態。決勝グリッドを決めるタイム計測はフリー走行のラスト 5 分のみ。アタックドライバーは路面の状況を確認しながら、タイム計測の 5 分間に向けて除々にペースを上げてくる。

予選 1 番手となるタイムを叩き出したのは、No.23「カーケアオフィストゥデイ」で、タイムは 1'06.576 をマーク。
このクラスは、毎回同様であるが予選タイムが非常に僅差となる。
今回も例外なく、2 位の No.99「モノコックボデーミュートゥデイ」は 1'06.732、3 位の No.36「ＪＫレーシングユーロートゥデイ」は 1’06.752、4 位の No.236「タカタＣＣＭＣトゥデイ」は 1'06.888 とＦ１並みの接近戦を繰り広げる。

予選 5 位からは 7 秒台となり、5 位は No.90「ガレージトライトゥデイ」でタイムは 1'07.337、6 位は No.10「ぽんこつＲＴトゥデイ」で 1’07.488、7 位は No.50「ベストライフトゥデイ」で 1’07.923 と続く。

■序盤

1 回目のピットに入る前の序盤 30 分時点では、予選上位チームがそのままに上位を占める形に。

そんな中、目立った順位変動があったのは、予選 5 位の No.90「ガレージトライトゥデイ」が 3 位に、予選 7 位の No.50「ベストライフトゥデイ」が 5 位に上がった点か。

60 分を経過した時点では 1 回目のピットインを先延ばしにした 3 台が上位を独占する。1 位に No.23「カーケアオフィストゥデイ」、2 位に No.90「ガレージトライトゥデイ」が共に 32Lap で入り、3 位に 31LAP の No.36「ＪＫレーシングユーロートゥデイ」が続く。

4 位からは 1 回目のピットインを消化したチームが続く。4 位 No.99「モノコックボデーミュートゥデイ」、5 位 No.10「ぽんこつＲＴトゥデイ」は 28 周を走行。

以下、6 位 No.50「ベストライフトゥデイ」、7 位 No.236「タカタＣＣＭＣトゥデイ」、8 位 No.127「アンティスネコマルトゥデイ」が 27 周の同一ラップで続く。

■終盤

決勝時間の約半分が経過ところで、上位を走行していた No.99「モノコックボデーミュートゥデイ」がマシントラブルでコースアウト。そのままリタイヤとなり、3 連勝の夢がついえてしまう。

2 時間経過時点でのトップは、No.36「ＪＫレーシングユーロートゥデイ」で 62Lap を周回。これを同一周回のわずか 2 秒遅れで No.90「ガレージトライトゥデイ」が追いかける。

3 位には No.23「カーケアオフィストゥデイ」が 60 周で続くが、上位 2 台よりも既に義務ピットインを 1 回多く消化していることから、実質はトップにいる計算になる。

4 位と 5 位は同一の 58Lap での争い。No.50「ベストライフトゥデイ」と No.236「タカタＣＣＭＣトゥデイ」が 14 秒差でしのぎを削る。

以下 6 位 No.127「アンティスネコマルトゥデイ」、7 位 No.10「ぽんこつＲＴトゥデイ」が 57 周で続く。

■最終結果

レース終了約 20 分前にトップを走行していた No.36「ＪＫレーシングユーロートゥデイ」が痛恨のコースアウト。これに変わってトップに立った No.90「ガレージトライトゥデイ」は、ラスト 10 分で 3 回目の義務ピットインに入る。

これでトップに立った No.23「カーケアオフィストゥデイ」がそのまま 1 位でチェッカーを受け、嬉しい初優勝を飾った。周回数は 95 周であった。

2 位には No.50「ベストライフトゥデイ」が 93 周で入り、こちらも嬉しい初表彰台をＧＥＴした。

3 位は 92 周で No.236「タカタＣＣＭＣトゥデイ」が入る。このチームは 4 戦中の 3 戦で表彰台に登っており、安定した速さを今回も発揮した。

4 位は終盤までトップを走っていた No.36「ＪＫレーシングユーロートゥデイ」が 91 周で入る。

5 位と 6 位も 4 位と同一の 91 周で、No.127「アンティスネコマルトゥデイ」、No.10「ぽんこつＲＴトゥデイ」と続いた。

以下 7 位に 90Lap の No.90「ガレージトライトゥデイ」、8 位と 9 位は 87Lap で No.35「ＪＫレーシングユーロービート」と No.51「オーシャンズセブントゥデイ」が入り、10 位は 85Lap で No.100「ＨＡＣもらいものビート」が続いた。

■シリーズ展望

シリーズポイント争いは、前戦終了時には No.99「モノコックボデーミュートゥデイ」と No.236「タカタＣＣＭＣトゥデイ」が 1 点差で 1 位を争っていたが、今回 No.99 がノーポイントに終わったことで、No.236 が 52 点で頭一つリードする形となった。

これを 44 ポイントの No.36「ＪＫレーシングユーロートゥデイ」、41 ポイントの No.99「モノコックボデーミュートゥデイ」、38 ポイントの No.23「カーケアオフィストゥデイ」が追いかける展開になったが、シリーズ優勝争いは上記の 4 チームに絞られた。

また、シリーズ優勝の可能性は消えたものの、30 ポイントの No.50「ベストライフトゥデイ」、28 ポイントの No.10「ぽんこつＲＴトゥデイ」、26 ポイントの No.127「アンティスネコマルトゥデイ」も上位を狙えるポイントに付けており、最終戦での順位争いからは目をはなせない。

■ＫＮＯクラス（軽ＮＡのオープンクラス）

現在 3 連勝中の No.126「アンティスネコマルトゥデイ」が今回は欠場。このためエントリーした 4 台のチームは、シリーズポイントを大きく伸ばすチャンスとなった。このチャンスをものに出来るのはどのチーム か？

■予選

予選 1 番手となるタイムを叩き出したのは No.223「ヤマモトリンダトゥデイ」でタイムは 1’06.531。前回は新調したマシンの準備が間に合わずリタイヤとなったが、今回ようやくデビューを果たし 1 位をＧＥＴ。

2 番手には今年初参加となる No.912「ＣＲＡＺＹＺＹ ＪＡ４ 2号」が 1'06.889 のタイムで入る。

3 位には No.57「伊藤家ＲＴ＋助っ人トゥデイ」が入り、タイムは 1’08.266 をマーク。

4 位の No.211「白須賀トゥデイ」は 1'15.727 のタイム。

■序盤

1時間を経過した時点では、1回目の義務ピットインを先延ばしにしていた No.912「ＣＲＡＺＹＺＹ　ＪＡ４　2号」が 29Lap で頭一つリードする。
2 位は 27Lap で No.223「ヤマモトリンダトゥデイ」が追いかける。
また 3 位の No.57「伊藤家ＲＴ＋助っ人トゥデイ」も 2 位と同一の 27Lap で追いかける展開。
4 位の No.211「白須賀トゥデイ」は 25Lap を周回。

■終盤

2 時間経過時点でも接近戦が続く。
1 位の No.57「伊藤家ＲＴ＋助っ人トゥデイ」は 56Lap を周回。これを 2 位の No.912「ＣＲＡＺＹＺＹ　ＪＡ４　2号」が、わずか 7 秒差で追いかける。
さらに 30 秒差で、3 位の No.223「ヤマモトリンダトゥデイ」が追いかける。
4 位の No.211「白須賀トゥデイ」も 53Lap に付け、まだ表彰台の望みをつなぐ。

■最終結果

このクラス、最終的にトップでチェッカーを受けたのは No.223「ヤマモトリンダトゥデイ」であった。90 周を走り切りニューマシンでのデビューを勝利で飾った。
2 位には No.912「ＣＲＡＺＹＺＹ　ＪＡ４　2号」が入る。トップとの差は僅かに 9 秒と、あと一歩届かなかった。
3 位は 89 周を走った No.57「伊藤家ＲＴ＋助っ人トゥデイ」が入る。終盤までトップを走行していたが、最後に逆転を許してしまった。
4 位には 84 周の No.211「白須賀トゥデイ」が入った。

■シリーズ展望

今回欠場となった No.126「アンティスネコマルトゥデイ」が 60 ポイントで首位を行くが、2 位の No.223「ヤマモトリンダトゥデイ」も 50 ポイントと優勝の可能性を残しており、最終戦はこの 2 台の結果から目が離せない。
3 位の No.211「白須賀トゥデイ」は 37 ポイントながら、最終戦の結果次第ではシリーズ準優勝を狙える位置にいるので、こちらのがんばりも注目である。

■ＫＴＣクラス（軽ターボ車のクローズドクラス）
毎回安定して７台前後のエントリーとなるこのクラス。今回は上位常連の No.27「タナカオートレーシング」と No.46「カーエナジー」が欠場となったが、初参加の１台を含めて７台のエントリーとなった。

■予選
予選 1 位となったのは、No.14「ガレージイシヤマアルトバン」で、タイムは 1'06.289 をマークする。
続く 2 番手には No.210「ＺＥＳＴ　Ｓｐｒｉｇｈｔアルト」が入るが、タイムは 1 位と僅か 0.013 秒差の 1’06.302。
3 位の No.21「ＺＥＳＴ　Ｓｐｒｉｇｈｔセルボ」も 1'07.176 と上位に肉薄するタイムで続く。
以下 4 位に No.15「ガレージイシヤマＴＴＳセルボ」が 1'07.927 で、5 位に初参加の No.79「連邦仕様カプチーノ 0 号機」が 1'09.363 で、6 位には No.392「Ｚａｍｍｅｒヴィヴィオ」が 1’10.000 で続く。

■序盤
決勝開始から約 30 分。予選 1 位からスタートの No.14「ガレージイシヤマアルトバン」がＫＴＯクラスのマシンと接触しコースオフ。赤旗中断となり洗車場に直行する。しかし走行に支障のある箇所にダメージは無く、そのまま義務ピットインを履行してレースに復帰したことで、マージンを得る結果に。
60 分経過時点では 1 回目の義務ピットインを先延ばしにした No.79「連邦仕様カプチーノ 0 号機」が 31 周でトップに立つ。
2 位の No.14「ガレージイシヤマアルトバン」が 29Lap を周回し、これを 1 周差で追う 3 位には No.210「ＺＥＳＴ　Ｓｐｒｉｇｈｔアルト」が付ける展開。
4～6 位は 27 周の同一周回での争い。No.15「ガレージイシヤマＴＴＳセルボ」、No.392「Ｚａｍｍｅｒヴィヴィオ」、No.21「ＺＥＳＴ　Ｓｐｒｉｇｈｔセルボ」の順で続く。

■終盤
2 時間経過時点では No.14「ガレージイシヤマアルトバン」と No.79「連邦仕様カプチーノ 0 号機」が 60Lap で上位に位置する。
続く 3、4 位は 57Lap で No.15「ガレージイシヤマＴＴＳセルボ」、No.210「ＺＥＳＴ　Ｓｐｒｉｇｈｔアルト」と続く。
以下、5 位に No.21「ＺＥＳＴ　Ｓｐｒｉｇｈｔセルボ」が 55Lap で、6 位に No.820「東海麗神愚アドバンセルボー」が 53Lap で、7 位に No.392「Ｚａｍｍｅｒヴィヴィオ」が 52Lap で続く。

■最終結果

トップでチェッカーを受けたのは、No.14「ガレージイシヤマアルトバン」で95周をラップした。序盤に他車に接触されるトラブルに見舞われたが、最終的にはこれが有利に働く結果となった。
2位には93周を走りきったNo.210「ZEST Sprightアルト」が続く。今回はトップがマージンを得たこともあり1位と2周差の結果となったが、トップと互角に勝負できる速さがあることを見せた。
また、終盤に順位を上げて来たNo.21「ZEST Sprightセルボ」が、ラスト20分で3位にポジションを上げ、89周の結果でチェッカーを受けた。
逆に4位のNo.15「ガレージイシヤマTTSセルボ」はラスト20分時のピットインから出る際にマシントラブルに見舞われ惜しくも表彰台を逃した。
初参加ながら終盤まで上位に絡んだ No.79「連邦仕様カプチーノ 0号機」は88Lapで5位に入った。
以下6位には86LapのNo.820「東海麗神愚アドバンセルボー」が、7位には80LapのNo.392「Zammerヴィヴィオ」が続いた。

■シリーズ展望

今回20ポイントを獲得した No.14「ガレージイシヤマレーシング」が合計75ポイントとなり頭一つリードする形に。またシリーズ2位のNo.210「apZEST with Class」が57点で追い、シリーズ優勝の可能性がこの2チームに絞られた。
以下3位No.21「auto produce ZEST」が40点、4位No.27「タナカオートレーシング」が32点、5位No.46「カーエナジー」が25点、6位No.15「ガレージイシヤマレーシング」が24点と続く。
最終戦にエントリーするチーム次第で、ポイント争いの行方が大きく変わりそうなこのクラス。第5戦でのエントリーチームが非常に気になるところである。

■ＫＴＯクラス（軽ターボ車のオープンクラス）

前回 40Kg のウエイトを積んで走行した No.8「チームグローバルカプチーノ」は、前戦を 2 位で終えたため今回はウエイトハンディー無し。一方 No.192「ＤＸＬメビウスセルボモード」は前回優勝したために今回は 20Kg のウエイトを積む。シリーズポイント争いは No.8 が 55 点、No.192 が 47 点と、今回の結果次第では順位が変わる可能性も。
No.55「アビリティガレージ」も常に二桁のポイントを獲得する安定ぶりで、37 ポイントの 3 位で上位を追う。この 3 台を中心にレースは展開しそうであるが、今回は 8 台のエントリーとなり伏兵が現れる可能性も･･。

■予選

予選 1 番手のタイムを出したのは No.192「ＤＸＬメビウスセルボモード」で、タイムはオーバーオールとなる 1'04.518。ウエイト搭載を感じさせない見事なタイムをたたき出す。
2 番手には 1'05.633 を出した No.59「ナルミファクトリーアルト」が入ってくる。このチームも常に上位に絡んでくるが、第 3 戦を欠場しているために、シリーズを追う上では今回は取りこぼしが出来ない。
3 位入ってきたのは、今年は初参戦となる No.333「サンコーカプチーノ１号」で、タイムは 1'06.229 をマーク。ここまで上位 3 台が予選総合でも上位を占め、決勝スタートのフロントローから 3 台はＫＴＯクラスのマシンが並ぶことに。

4 位はシリーズリーダーの No.8「グローバルカプチーノ」。1'06.701 のタイムで、トップを視野に捉える位置を確保する。
5 位の No.666「ヴィスコンティⅠMWあると」は 1'06.868、6 位の No.55「アビリティーガレージワークス」は 1’07.255 と、ともに 4 位に肉薄するタイムをマークし混戦を予感させる予選結果に。

■序盤

レース約 1 時間時点での順位は、No.8「グローバルカプチーノ」が 28Lap でトップに立つ。このチームは安定して速いタイムを出すのが特徴でもあるが、今回も例外なく序盤から好位置を確保する。
2 位には予選 6 位からスタートの No.55「アビリティーガレージワークス」が大きくジャンプアップ。27 周をラップする。
3 位には新規格ミラターボを持ち込んできた No.78「ガレージ凪屋チャレンジミラ」が、予選 8 位からのスタートながら新規格車に与えられるマイナスハンディーを活かして大きく順位を上げてくる。
4 位の No.333「サンコーカプチーノ１号」は 26Lap、5 位の No.666「ヴィスコンティⅠMWあると」は 25Lap と、トップを射程圏内にしているのはこのあたりまでか。
予選 2 番手からスタートした No.59「ナルミファクトリーアルト」は、駆動系のトラブルが原因となり、僅か 14Lap でレースを終えてしまう。

■終盤

2 時間経過時点での 1 位はなおも No.8「グローバルカプチーノ」で 59 周をラップする。
2 位には No.55「アビリティーガレージワークス」が 57Lap で続き、優勝の望みをつなぐ。
3 位は No.78「ガレージ凪屋チャレンジミラ」が 56Lap で続き、初参加にして表彰台を射程圏内に捉える。

4位のNo.333「サンコーカプチーノ1号」も55Lapと表彰台を十分に狙える位置に付けるが、5 位の No.666「ヴィスコンティIMWあると」は53Lapで、2戦連続の表彰台が微妙な位置に。
6位には初参加のNo.44「近藤自動車板金ビストロCVT」が追いかける。
また、トラブルを抱えて走行していた No.192「DXLメビウスセルボモード」は、2時間10分の時点でリタイヤとなってしまう。

■最終結果
このクラストップでチェッカーを受けたのは、No.8「グローバルカプチーノ」であった。94Lap を走り切り総合でも 3 位となる好成績を残した。
2位になったのはNo.55「アビリティーガレージワークス」。終始2位のポジションをキープしていたが、トップには追いつけず91Lapでチェッカーを受けた。
3位にはNo.78「ガレージ凪屋チャレンジミラ」が入る。このクラスで新規格軽が表彰台を獲得するのは初の快挙。今後、新規格軽でのエントリーを考えているチームに、大きな勇気を与える結果を残した。
4位は89周を走りきったNo.333「サンコーカプチーノ1号」が入る。予選は3位だったものの決勝ではスピンやペナルティなどが響き、あと一歩表彰台には届かなかった。
以下、5 位に 87Lap の No.666「ヴィスコンティIMWあると」、6 位に74Lapの No.44「近藤自動車板金ビストロCVT」と続いた。

■シリーズ展望
今回No.8「チームグローバル」が優勝し、シリーズ2位に付けていたNo.192「DXLメビウス」がノーポイントに終わったことから、最終戦を待たずしてNo.8のシリーズ優勝が確定した。
また今回15ポイントを獲得したNo.55「アビリティーガレージ」が合計52点でシリーズ2位に浮上し、最終戦でNo.192とシリーズ2位争いを繰り広げることになる。
このクラスはシリーズ4位までがシリーズ表彰の対象となる可能性が高い。
現在シリーズ 4 位に付けている No.666「S．C．C．V」が 32 ポイントで表彰圏内最有力ではあるが、5,6,7 位に付けているチームまでがその可能性を残しているため、表彰対象をめぐっての争いも興味深いところである。

■KWTクラス（軽ワゴン＆トラックのクラス）

開幕より 3 連続出場していた No.2「チームCreaty」は、前戦の転倒でダメージを負い今回は欠場。
一方 No.39「Stage One RACING with Miku」が開幕戦以来となる久々の出場。痛車カラーリングを施されたワゴンRが、総合でどこまで順位を伸ばせるか。

■予選

このクラスは 1 台のみのエントリーとなったため、興味の的は総合での順位。そんな中、KWTクラスとしてはかなり速い 1'11.059 をマークし、36 台中 29 番目のグリッドからのスタートとなる。

■レース展開

KWTクラスのマシンは、マイナスハンディーとして義務ピットイン時間が 2 分短縮される。このメリットを活かし、1 時間が経過した時点では総合 18 位にまでポジションを上げる。またベストタイムも 1'09.365 と、ついに 10 秒を切るタイムをマークする。
2 時間経過時点では、さらに順位を上げて 15 位にまでジャンプアップし、最終順位でのベスト 10 入りも見えて来る。

■最終結果

3 時間を無事走りぬき、最終順位は総合 13 位でフィニッシュした。これはKWTクラスとしては過去最高の順位であり、今後KWTクラスでの参加を検討している人に希望を与える結果といえよう。
セッティングが進んで行けば、ベスト１０内に食い込むことも現実味を帯びてきた。次戦以降の戦いぶりにも注目である。